

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 67

2013年7月16日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。 <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「第7回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu」に出展します
2. 「静岡大学共同研究希望テーマ説明会」を開催します
3. 静岡大学・読売新聞連続市民講座2013「グローバル化時代を生きる」ご案内
4. 「イノベーション・ジャパン2013」に出展します

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. 「第7回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu」に出展します

静岡大学との産学連携をご検討の皆さまは、ぜひこの機会に静大ブースにお立ち寄りください。コーディネーターがサポートさせていただきます。

日時 2013年7月23日（火）10：00～17：00
7月24日（水）10：00～16：00

会場 アクトシティ浜松 展示イベントホール

静岡大学の出展内容

J-13 静岡大学の産学連携と静大発ベンチャーのご紹介

詳細 <http://www.hamamatsu-bmf.jp/>

静岡大学の問合せ先 イノベーション社会連携推進機構 研究活用支援部門
E-mail collabo[at]cjr.shizuoka.ac.jp

2. 「静岡大学共同研究希望テーマ説明会」を開催します

日時 2013年7月26日（金）13：00～16：35
会場 アクトシティ浜松研修交流センター 62研修交流室
主催 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
プログラム

1. 「高速・高分解能な位置決めを同時に実現！！
～低電圧電源での駆動可能なインテグレートアクチュエータ～」
大岩 孝彰（工学研究科機械工学専攻 教授）
2. 「エンジンの熱効率を飛躍的に向上できる！！
～複合サイクルエンジン技術の産業利用～」
平田 邦夫（工学研究科機械工学専攻 教授）
3. 「群ロボットの新たな可能性を探る！
～変形性を持つ移動体の集団現象～」
益子 岳史（工学研究科機械工学専攻 准教授）
4. 「流体機能の応用にむけて
～磁気機能性流体の流動と伝熱～」
本澤 政明（工学研究科機械工学専攻 助教）
5. 「マイナス12度で細胞を凍らせずに保存する技術
～核磁気共鳴現象を用いた生体細胞の不凍結保存法の開発～」
木村 元彦（工学研究科化学バイオ工学専攻 教授）
6. 「実験とシミュレーションをより効率的に！
～分布定数系と集中定数系の連成による実験・計算負荷軽減～」

- 武田 和宏 (工学研究科化学バイオ工学専攻 准教授)
7. 「ポストリチウムイオン二次電池を開発する！！
～マグネシウムイオン伝導体および全固体二次電池の開発～」
富田 靖正 (工学研究科化学バイオ工学専攻 准教授)
8. 「天の虫がワクチンを作る？
～カイコを用いた動物の病気治療用ワクチンの開発～」
朴 龍洙 (グリーン科学技術研究所 教授)
9. 「人や環境のための低価格クラウドを用いたWEB情報システム
～安否、節電、健康の情報収集と啓発システム～」
長谷川 孝博 (情報基盤センター 准教授)
10. 「低価格&柔軟性のある業務アプリケーションを作ります！！
～クラウドサービスを利用した中小企業向け情報化推進プラットフォーム
の構築～」
田中 宏和 (情報学研究科情報学専攻 教授)

参加費 無料
申込〆切 7月24日
詳細/申込 <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/center/eventlog/no99.html>
問合せ先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1413 FAX 053-478-1711
E-mail [tane8p\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:tane8p[at]cjr.shizuoka.ac.jp)

3. 静岡大学・読売新聞連続市民講座2013
「グローバル化時代を生きる(全5回)」のご案内

グローバル化の進展は、世界的な人の移動を加速させ、家族やコミュニケーションのあり方をはじめ、大きな社会構造の変化をもたらしました。これからどのような社会を構築していけばいいのか、さまざまな側面から展望します。

第1回「多文化共生社会に求められる異文化理解能力」
静岡大学国際交流センター教授 原沢伊都夫
※多様化が進む現代社会において求められる“異文化理解能力”について、“異文化”の概念とともに、正しい“異文化”との接し方、付き合い方を考えます。

日時 2013年7月27日(土) 14:00~16:00
会場 あざれあ(静岡県男女共同参画センター) 6F大ホール
主催 静岡大学イノベーション社会連携推進機構、読売新聞東京本社静岡支局
参加 無料
定員 各回350人 ※4回以上ご参加の方には修了証を発行します。
詳細 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event001202.html>
申込先 読売新聞静岡支局 静大市民講座係
TEL 054-252-0171 FAX 054-252-0310
E-mail [shizuoka\[at\]yomiuri.com](mailto:shizuoka[at]yomiuri.com)

4. 「イノベーション・ジャパン2013」に出展します
～大学見本市&ビジネスマッチング～

日時 2013年8月29日(木) 9:30~17:30
30日(金) 10:00~17:00
会場 東京ビッグサイト[東京国際展示場]
主催 (独)科学技術振興機構、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構

静岡大学の発表・展示

- 「表面弾性波を用いた直線・曲面用デジタル式変位計」
大岩 孝彰 (工学研究科機械工学専攻 教授)
- 「安否確認システムの導入支援(クラウド安否情報システム: ANPIC)」
長谷川 隆博 (情報基盤センター 准教授)
- 「非接触で人間の体の硬さを測定する計測器」
犬塚 博 (工学研究科電気電子工学専攻 教授)
- 「高性能CMOSセンサを用いた低ノイズマルチアパーチャカメラ」
香川 景一郎 (電子工学研究所 准教授)
- 「インピーダンス変化型センサの無電源無線化に関する研究」
近藤 淳 (創造科学技術大学院 教授)
- 「革新的医用材料: 新規な抗腫瘍剤及び低侵襲性材料開発」
山下 光司 (創造科学技術大学院 客員教授)
- 「水溶液中の過塩素酸イオン及び硝酸イオンの呈色剤」
近藤 満 (グリーン科学技術研究所 教授)

参加 無料

詳細 <http://www.innovation-japan2013.jp/>

静岡大学の問合先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構

TEL 053-478-1718 FAX 053-478-1711

E-mail [invjp11\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:invjp11@cjr.shizuoka.ac.jp)

《 みんなのコラム -61- 》

記: 電子工学研究所

工学研究科電子物質科学専攻 教授 猪川 洋

私は20年間企業でシリコン(Si)集積回路デバイスの研究開発に取り組み、2006年から縁あって静岡大学に奉職しております。Siデバイスは、ナノメートル寸法に微細化すると電子1個1個の振る舞いが見えるようになったり、逆に電子1個1個の動きを積極的に制御できるようになったりします。静岡大学では、このようなSiナノデバイスの特性を活かして、光子1個1個を検出できる高感度な光検出器や、ナノメートル寸法のSiに光を効率良く吸収させるためのアンテナなどの研究をしています。産学連携という面では、静岡大学に来て7年の間に、多くのサポートを頂いたことを、この場をお借りして深くお礼申し上げます。文部科学省の知的クラスター創成事業(第II期)浜松・東三河地域オプトロニクスクラスターでは、1つの研究テーマを担当させて頂き、研究遂行にあたっては浜松地域テクノポリス推進機構ならびに共同研究企業に、多大な支援を賜りました。個別の企業との交流においては、産学連携のイベント、例えば静岡大学が継続的に開いている「共同研究希望テーマ説明会」、静岡大学と科学技術振興機構が主催した「新技術説明会」、静岡県他が主催した「テクノサロン浜松研究・開発成果発表会」などが良い機会となり、共同研究を始めたり研究を受託させて頂いたり奨学寄附金を頂いたりすることができました。このように多くの企業の方と一緒に仕事をさせて頂きましたが、実用化という観点では課題が残っています。Siデバイスは多くの需要があれば安価になりますが、少量だと極めて高価になります。ナノメートル寸法を含むものになると1億円単位の開発費が必要となります。また最近では、製造のみを請け負う外国企業(ファウンドリ)が台頭する一方で、新しいアイデアを盛り込むための製造工程のカスタマイズは困難になっています。このような状況を打破するために今後は、大きな使用数を見込めるライフサイエンス分野、例えばSiナノデバイスによる生体物質の高感度検出などに取り組むと同時に、少量でも低コストで製造する技術についても協力を得て検討を進めていきたいと考えています。引き続きご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

<< 編集後記 >>

静岡大学の電子工学研究所は、この4月に文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定されました。

拠点名は「イメージングデバイス研究拠点」。

電子工学研究所では、エレクトロニクス、フォトリソグラフィ、メカトロニクスに関する全国の研究者と共同利用・共同研究を行うことを通し、時間、空間、強度、波長において極限性能を目指した革新的イメージングデバイス（撮像素子）の研究開発を推進します。

また、イメージングデバイス利用者コミュニティに対し、極限イメージングデバイスの情報を提供するとともに共同利用・共同研究により、生命科学、医療、環境、物質科学など幅広く学術研究の発展に寄与していくことを目指しています。

今後は、イメージングデバイス分野の中核的な研究拠点として、更に多くの皆さまにご利用いただければと思います。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：原典子

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright (c) 2008-2013

Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved